

(特非) リバーシブル日向

カンムリウミスズメ繁殖地沿岸海域の 里海環境保全活動

イベントの 延べ参加者数	270人
イベント参加者 の満足度	100%
活動の全体目標 に対する達成度	70%



第1回「かどがわ環境大学」

◆成果と工夫したポイント

●成果

庵川東地区で開催した第1回「かどがわ環境大学」では、15名程度の参加者を見込んでいたが、実際は30名を超える参加者数で、地域の方々の関心の高さを実感した。

●工夫

啓発用パンフレットに門川湾の現状も表記した。

課題

国の天然記念物であるカンムリウミスズメの繁殖地海域のバックヤードである門川湾の環境保全活動を、町民活動として進めていきたい。

目標

門川町民の里海環境保全意識改革と里海に対する理解を促し、門川町のマスコットとして認知されているカンムリウミスズメの繁殖地沿岸海域の環境を守ることを目的とした、里海の環境保全活動を実施する。

活動内容

①門川高校「アマモ班」と協議を重ねた結果、「ラムサール条約認定湿地」登録を目標に設定し、条約について学び、門川湾が登録対象の水域であることが判明した。②門川湾の現状を知る必要があるということで、干潟底生生物調査、アマモ藻場調査、鳥類調査を3回実施した。③調査データをもとに啓発用パンフレットを作成した。



基礎調査（鳥類）

達成できなかったこと

「かどがわ環境大学」開催が一回しかできなかったことにより、活動団体及び個人の参加者増ができなかった。

今後の展望

啓発ツールもそろったので、当初予定の地区公民館単位の「かどがわ環境大学」を定期開催する。